

元戦車中隊長の模型部屋 第20回

皆さんこんにちは。今、映画「鬼滅の刃」が大ヒットしていますね。観に行かれて感動された方も多いと思います。そういえば皆さんは印象に残った映画、感動した映画、人生を変えた映画はありますか？私は「203高地」「八甲田山」「トップガン」「T-34」・・・全部戦争映画ですね（笑）その中でも中学生の時にテレビで観た「バルジ大作戦」は私を戦車乗りにした決定的な映画でした。今回はその劇中で出てくる戦車を作りました。それが・・・



M47パットン戦車
(ドイツ軍キングタイガー仕様) です。

「バルジ大作戦」は1966年公開のアメリカ映画で、第2次大戦末期にドイツ軍がアメリカ軍に大攻勢を仕掛けた戦車戦を描いたものです。映画の中でドイツ戦車隊長のヘスラー大佐が着任した戦車部隊が少年兵ばかりで隊長が不安に感じたところ、少年兵たちが自らを奮い立たせるために「パンツァー・リート」（戦車の歌）を歌い始め、最後は大佐以下全員で大合唱するシーンがあるのですが、これが最高にカッコイイ！私が戦車に乗っていたときは常にこの「パンツァー・リート」が頭の中で流れていました。私の通勤時の車でも常に流しており、娘達から「またこの歌？多分日本人の中でこの歌を一番聞いている女子だと思うよ」とクレームが（笑）



M4 7パットン戦車は米国製の戦車なのですが、映画の撮影ではスペイン陸軍の戦車を借用したそうで、実際のドイツ軍のキングタイガーとは程遠いのですが、観ているうちに、これが不思議とカッコよく思えるようになります（笑）



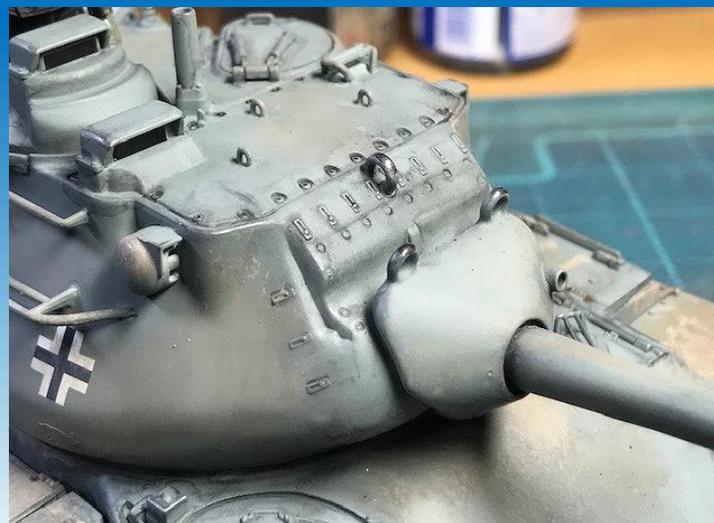
キットはイタレリ社の物をタミヤ社が独自のパーツを同梱して発売したものです。水転写デカールにはなぜか塗装説明書にはない「R-01」と「鉄十字」のマークが！絶対この映画に出てきたヘスラー大佐車を作れと言わんばかりです（笑）



組み立ては映画を見ながら細部の改造を施していますが、砲塔工具箱を外した状態にした他はストレート組です。塗装色は映画を観ながら判断し、タミヤアクリルカラーのスカイグレイに少しグリーンを混ぜたものを使用しました。シーンによって様々なグレー色に見えるので、個人的主観で決定しました。



マフラーカバーは熱により塗膜が退色して錆が発生し、その錆で塗膜が浮き出るので、茶色パステルコンテの粉をアクリル溶剤で荒く塗りつけ、その上からライトグレイでドライブラシ、更に黒でスミ入れをして錆を浮きだたせ、ウェザリングスティック（ダークアース）で泥汚れを表面に付着させます。マフラーからのススは黒のパステルコンテを粉にして塗り込み、更にエンジンオイルが噴き出たように見せるため、光沢色の黒を薄めてマフラー直下にこすりつけてます。



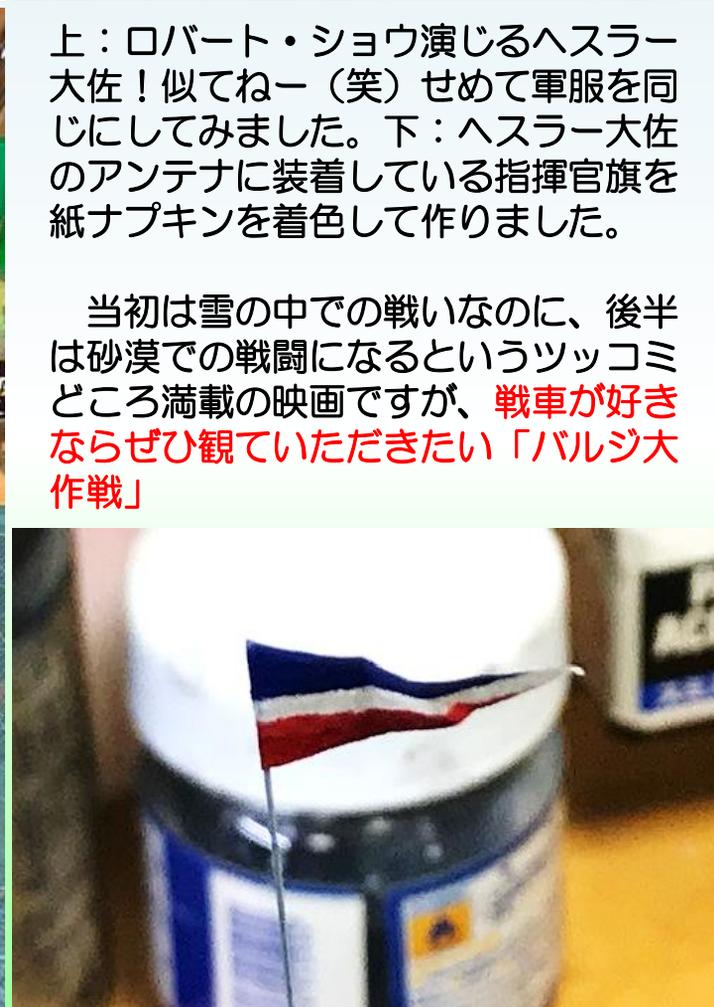
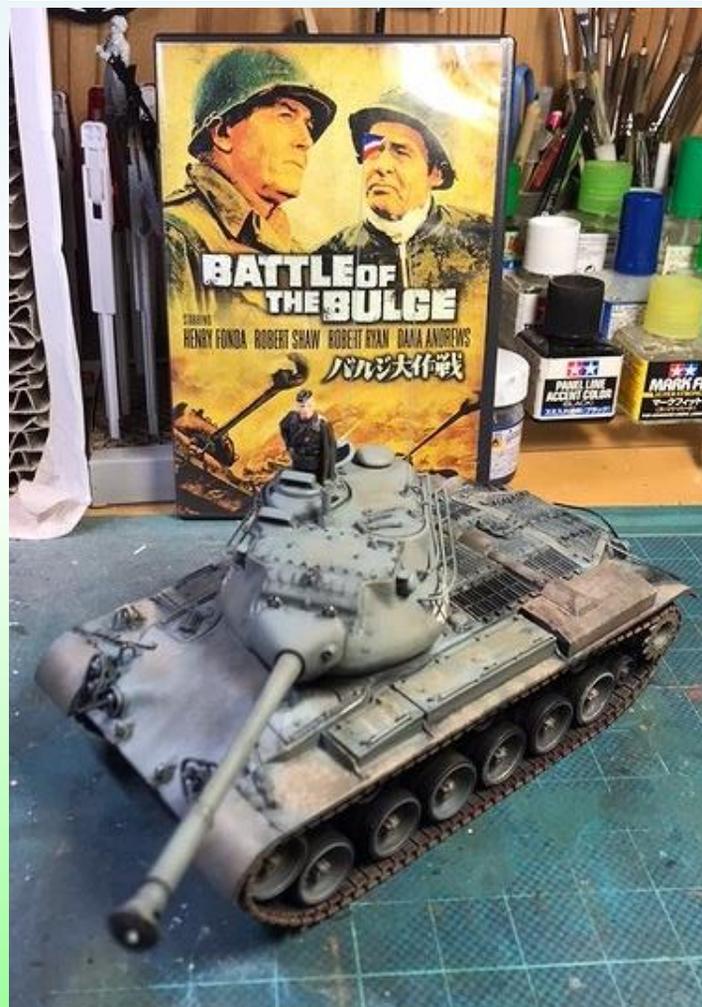
砲塔の各種フックや凸部は乗員や木々の接触により塗膜が剥げるので、鉛筆芯の粉を指でこすりつけて金属感を出します。砲口はススがこびり付き、弾体の銅の破片により緑錆が付着してます。わかりますか？



左：車体後部のワイヤーロープはナイロン糸に接着剤をしみこませ、メタルカラーを塗って磨き上げて金属感を出しています。右：履帯は撓む場所に綿棒の先を挟み込み、瞬間接着剤を流し込んで固定し、撓んだ表現を出しています。



映画のシーンを彷彿とさせます。アメリカ軍を追い詰めるキングタイガー！
(M47だけど・・・)



上：ロバート・ショウ演じるヘスラー大佐！似てねー（笑）せめて軍服を同じにしてみました。下：ヘスラー大佐のアンテナに装着している指揮官旗を紙ナプキンを着色して作りました。

当初は雪の中での戦いなのに、後半は砂漠での戦闘になるというツッコミどころ満載の映画ですが、**戦車が好き**ならぜひ観ていただきたい「**バルジ大作戦**」

ドイツ軍歌
「パンツァーリート」

風吹きすさぶ雪の夜も
太陽輝く炎天も

埃にまみれて
我が意気は天を衝く
進めよパンツァー
嵐越え



パンツァー・フォー！
(戦車前へ！)

それでは、またお付き合いくださいね！